

菟田ロータリークラブが マザーグースに活動支援金を寄贈

菟田ロータリークラブ（高城直紀会長）が6月13日、町内の小学校で絵本の読み聞かせなどを行っている「おはなし会マザーグース」に活動支援金を贈りました。この寄贈は、「読み聞かせを通じて子どもたちに本に親しんでもらいたい」との思いで同クラブが行ったもので、マザーグース代表の濱田順子さんは「ありがとうございます。これからも子どもたちに読み聞かせを楽しんでもらいたいです」と感謝の言葉を述べました。



与原小の児童がごみ収集車を見学 ごみ出しルールの大切さを学ぶ

与原小学校の4年生が6月16日、環境学習の一環としてごみ収集車を見学しました。児童たちは、ごみ収集業者の説明を受けながら、収集車がごみを圧縮する様子や荷箱の内部を見学。収集業者は「収集日が違うごみや正しく分別されていないごみがあると、収集車が壊れる原因になります。1人1人がルールを守って正しくごみを出しましょう」と話し、児童たちはごみ出しルールの大切さをしっかり学んだようでした。



子育て支援センターでサッカー体験 子どもたちが楽しいひと時を過ごす

パンジープラザにある子育て支援センターで6月17日、利用者の子どもたちが参加するサッカー体験が行われました。講師はビーチサッカーチーム「ドルソーレ行橋」に所属する2選手が務め、子どもたちは走ったり飛び跳ねたりしながら、たくさん汗をかくて笑顔でサッカーを楽しみました。参加した子どもたちの保護者は「子どもの夢中な姿が見られて良かったです」と話していました。



埼玉県在住の森 晴志さん 町と母校白川小学校に寄付

菟田町出身の森晴志さんが6月20日、「故郷に貢献したい」と、町に500万円、母校の白川小学校に20万円分の図書カードを寄付してくださいました。森さんは19歳まで地元で過ごした後、31歳で埼玉県で不動産会社を立ち上げ、現在も同県に居住されています。森さんはこの日、町長に寄付金を手渡した後、同校を訪問して6年生と対面。故郷への思いを児童に語りかけるなど、久々の母校で和やかなひと時を過ごされました。



まちの話題

KANDA TOWN TOPICS

町の観光スポットをきれいに！ 観光協会が白石海岸で清掃活動

菟田町唯一の自然海岸である白石海岸をきれいにしようと、菟田まちづくり観光協会主催の清掃活動が7月2日に行われました。清掃活動には、地元住民をはじめ、菟田町漁業協同組合、菟田港周辺に立地する企業、西日本工業大学、行政関係者など約220名が参加。この日だけで約300袋分(1トン)のごみが集められました。同協会の野中代表理事は「白石海岸の景観を守るためにこれからも活動を続けていきたい」と話しました。



社会を明るくする運動の強調月間 保護司や町長が啓発活動

7月の「社会を明るくする運動」の強調月間に合わせ、7月3日に町内で啓発活動が行われました。この運動は、犯罪や非行を犯した人の立ち直りについて考え、犯罪や非行が起きない社会をつくろうと全国で行われている運動で、今年で73回目となります。この日は、犯罪からの立ち直りを支援している保護司の皆さんや菟田町長、町職員が菟田駅や商業施設に立ち、啓発グッズを利用者に手渡して運動の大切さを訴えかけました。



まちの話題

KANDA TOWN TOPICS

町内の児童が紙灯籠の絵を製作 子どもたちの絵が夏の夜を照らす

日産自動車九州㈱が主催する紙灯籠イベント（7月24日まで）の点灯式が、7月3日に同社正門で行われました。3回目となる今回、同社はイベントを地域に根付いたものにしたいと、町内6校の小学5年生と協力して紙灯籠を制作。点灯式当日、会場には「将来の夢」や「上達したいこと」といった子どもたちの願いが描かれた紙灯籠がきれいに並べられ、会場全体が幻想的な雰囲気になりました。



楽しかったよ！4年ぶりのプール 片島小児童がスイミーで水泳授業

片島小学校の児童たちが、6月21日に菟田町民温水プール「スイミー」で水泳授業を行いました。町内の小学校では、新型コロナや渇水のため2020年から水泳授業は中止されていましたが、今年4年ぶりに再開。スイミーでの授業は、熱中症などの安全対策やインストラクター指導による授業の充実を目的に、町が今年度から試験的に取り組んでいるもので、児童たちは久しぶりの水泳授業をとっても楽しんでいるようでした。

